

ナガイモの害虫ナガイモコガとその近縁種

独立行政法人農業環境技術研究所 ^{やす}安 ^だ田 ^{こう}耕 ^じ司

はじめに

ヤマノイモコガ *Acrolepiopsis suzukiella* はスガ上科アトヒゲコガ科に属し、ナガイモやヤマノイモの害虫として知られている (日本応用動物昆虫学会編, 1987)。最近、ナガイモにはヤマノイモコガではなく同属の別種ナガイモコガが寄生すること、そしてヤマノイモにはヤマノイモコガに加えてヤマノイモムカゴコガが寄生することが明らかとなった (YASUDA, 2000)。また同属にはネギの害虫であるネギコガやネギコガのフェロモントラップにも混入するトコロミコガが含まれる。これらの種はその大きさ、色彩、紋様などが互いによく似ており、肉眼での識別はかなり困難である。

そこで本稿ではヤマノイモとナガイモを食害する3種の食性に関する知見を整理し、それぞれの寄主植物と寄生部位を明らかにしておきたい。またこれらの種の識別を容易にするため、同属近縁種2種とともに成虫形態と交尾器を図示し、それぞれの特徴について簡単に説明する。

I 食用ヤマノイモ類の呼称

ヤマノイモコガやナガイモコガの寄主植物である食用ヤマノイモ類はヤマノイモ、ヤマイモ、ナガイモ、ジネンジョ、ヤマトイモなど様々な名前と呼ばれている。そこで、本論に入る前にこれらの植物の呼称について整理しておきたい。

日本の食用ヤマノイモ類には *Dioscorea alata*, *D. japonica*, *D. opposita* の3種がある。*D. alata* は南方系でダイジョと呼ばれ、日本では主に南九州や沖縄で栽培されている。*D. japonica* は日本および極東地域の山野に自生し、一般に「自然薯」と呼ばれ、野生のものが食用に供されるが、栽培されることはほとんどない。日本において経済栽培されているものはほとんどが *D. opposita* である。いもの形は長形、扁形、塊形など変異に富み、「キネイモ」、「イチヨウイモ」、「ツクネイモ」、「ヤマトイモ」など品種や系統ごとに多くの名称が用いられている。中国原産で日本には中世に伝来したといわれて

いる。

今回はダイジョ *D. alata* の害虫に関する調査は行っておらず、関係する植物は *D. japonica* と *D. opposita* の2種であるが、この両種の呼称は植物学分野と農学分野で異なっている。すなわち植物学分野 (堀田ら, 1989) では *D. japonica* をヤマノイモ、*D. opposita* をナガイモと呼んでおり、農学分野でも同様の用法を採用している学会もあるが、野菜名としては前者をジネンジョ (ウ)、後者をヤマノイモもしくはヤマイモと呼んでいて極めてまぎらわしい (佐藤一郎, 1990; 星川清親, 1980)。ここでは植物学分野の用法に従って、*D. japonica* をヤマノイモ、*D. opposita* をナガイモと呼ぶこととする。

II ナガイモおよびヤマノイモの小蛾害虫

ナガイモの葉や新芽を食害する小蛾類の害虫は、「イモコナガ」や「ヤマイモコナガ」の名で高橋奨 (1916) によって初めて記録された。高橋奨 (1922, 1928) は後に刊行した著書の中でもこの害虫を取り上げ、栽培種であるナガイモのみならず山野に自生する自然薯 (ヤマノイモ) にも寄生すること、また秋季にはナガイモのむかごにも寄生することなどの知見を追加したが、学名については未詳とした。

MORIUTI (1960) は山野に自生するヤマノイモ、トコロ、タチドコロなどの葉や新芽に寄生している小蛾の1種を *Acrolepia dioscoreae* (和名: ヤマノイモコガ) として新種記載した。この時、ナガイモを加害している個体は調査しなかったが、ナガイモを加害している個体もヤマノイモコガであると判断し、ヤマノイモコガの寄主植物リストにナガイモを加えた。その結果、長年にわたりヤマノイモコガはヤマノイモのみならずナガイモの害虫とされてきた。ただし学名については、先取権をもつ種小名が存在したことや属が分割されたことにより、*Acrolepiopsis suzukiella* と変更されて現在に至っている。

筆者は1996年ごろに鳥取県園芸試験場からの依頼を受け、ナガイモを食害している小蛾の同定を行った。調査の結果、それらはヤマノイモコガより小型であり、交尾器の形態が雌雄ともヤマノイモコガとは明らかに異なることがわかった。その後、北海道、青森、茨城からもナガイモに寄生していた標本を得て調べたところ、やは

Acrolepiopsis nagaimo YASUDA, a microlepidopteran pest of Chinese yam, and its related species. By Koji YASUDA

(キーワード: ヤマノイモコガ, ナガイモコガ, ヤマノイモムカゴコガ, ネギコガ, トコロミコガ)